

平和の礎(小金井空襲顕彰碑)



1945年7月28日午前11時55分頃、栃木県下都賀郡国分寺村(当時)の小金井駅周辺に米軍戦闘機3機が3回に亘り波状攻撃。列車はハ千の巣状態で地獄絵図のようだったという。乗客や駅周辺の人々31人が犠牲になり、80人以上が負傷した。戦後長らく空襲のことは語られなかったが、列車に乗り合わせ生き残った女性の訴えがきっかけとなり、1998年10月、JR小金井駅西口広場の一画に、当時の町長や元国鉄職員の尽力により「平和の礎」が建立された。毎年7月28日には、「碑」の前で慰霊祭が行われている。

